

2025. 8. 01

歴史民俗資料館だより No.160

長崎市歴史民俗資料館

〒852-8117 長崎市平野町7番8号

TEL (095) 847-9245 (FAX 兼用)

<http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/828000/p009251.html>

くんち資料展

会 期 8月21日(木) ~ 10月12日(日)

展示品 くんち衣装、踊町の写真(傘鉾・演し物)、
手ぬぐい、呈上・御礼札など



紺屋町 川船船頭衣装

昭和8(1933)年 若山 静枝氏 寄贈

はじめに

寛永11(1634)年に長崎諏訪神社の秋の大祭「くんち」が始まり、今年で391年となります。

この長い年月の間に、江戸時代の大火災、昭和の戦災や大水害、そして町界町名の変更などをへて、時代と共に7年に1度出演する踊町の数や組合せ、演し物の多くが変化してきました。

今年は、諏訪神社「御鎮座400年」という節目の年でもあることから、今回の企画展では、「長崎くんち」の魅力を改めて広く周知するため、これまで当館に寄贈頂いた各踊町の衣装や演し物の写真等を中心に「長崎くんち」を紹介する内容といたしました。

これまで貴重な資料等をご寄贈いただいた皆様をはじめ、各踊町の関係各位に深く御礼申し上げます。



船大工町 川船根曳衣装

昭和52(1977)年 光永 義久氏 寄贈

くんちの語源

重陽の節句、菊の節句の九月九日、この九日の“くにち”が「くんち」になったと言われています。

諏訪神社では寛永3(1626)年、はじめて神樂を奏し、湯立神事が行なわれましたが、大祭の最初は寛永11(1634)年でした。この時の社地は、まだ現在の玉園山に移る前の円山(現、松ノ森神社)で、(慶安元年・1648・遷宮)9月7日、遊女高尾・音羽の両人が神前に謡曲小舞を奉納。午後、神輿が御旅所に渡御され、8日は神事の^{とぎよ}後、御旅所で湯立神事が執行されました。そして、9日に神輿は無事還御^{かんぎょ}されました。



家紋まん幕

昭和17(1942)年 峰 道子氏 寄贈



愛宕焼 花器（中原仁市作 長崎土壺）
大正時代（1912～1925）野々村 俊明氏 寄贈
くんち踊町の龍踊等の演し物がレリーフされています。



羽織型くんち手拭張り混屏風
昭和 60（1985）年頃 吉村 愛子氏 寄贈



江戸町 兵式教練遊軍士官衣装
大正 2（1913）年 川添 弘之氏 寄贈



本古川町くんち衣装（海軍大将礼装）
昭和 7 年（1932） 黒瀬 勝子氏 寄贈



呈上・御礼札



本石灰町 御朱印船長采衣装
平成 11（1999）年 山口 哲治氏 寄贈